

他にアンビシャステクニ

ニアトラック准教授セッション、ポスターセッション、ムーンショットセッション、生命科学・医学セッション、物質科学セッション、文理融合セッション、20年度研究助成採択課題発表なども実施。午後6時の閉会時にベストプレゼンテーション賞、ベストポスター賞、研究助成対象グループを発表予定。

参加(聴講)無料だが、事前登録が必要。主管する北大遺伝子病制御研究所分子神経免疫学分野の村上正晃教授は「研究者だけでなく、学外の病院勤務医や看護師、薬剤師、臨床検査技師などからの申し込みも歓迎。特に本庶先生の特別講演は、高校生や一般の方の参加も可能」とアピールしている。問い合わせはメール、BOS2021@igm.hokudai.ac.jp。

本庶氏が特別講演

断ウ横局部
シ部ポ

10月1日に
ウェブ開催 一般聴講も可

北大は、第7回部局横断シンポジウム「新領域創成に向けた若手連携の形成」を10月1日午前9時〜午後6時にウェブ開催する。特別講演(午後1時30分〜2時45分)は、2018年ノーベル生理学医学賞を受賞した京大がん免疫総合研究センターの本庶佑センター長が「がん免疫治療の新展開」と題して行う。学外から一般聴講が可能。

ほか、昨年から材料・化学分野融合研究の構築に学系が加わり、今回は法学研究科なども参加するなど、過去最多の36部局の若手研究者が新たな学び、若手研究者グループ

の異分野融合新領域研究に対する助成事業は総額1千万円に増額された。本庶氏の特別講演は宝金清博総長が座長を務め、講演後に質疑応答も行う。本庶氏に続いて増田隆夫副学長(工学研究院特任教授)も「北大の研究の今後の方向性と私の夢(仮)」と題し20分間特別講演する。

15年度に始まった同シンポジウムは、企画・運営を各部局の若手研究者を主体とする世話人が担い、参加部局数は毎年増加。生命科学・医学系の